

やっぱり犬が好き

ここは私が暮らす、「とある住宅地」。

緑が豊かで、道も広い。スーパーや駅も近い便利さは私のお気に入り。なにより近所の人みんな顔見知りなところが、気心が知れて心地よい。

でも、かれこれ30年になるこの街。子どもの声はいつしか消え、気がつけば周りには定年退職された人も多くなりました。

そのせいでしょうか。朝、夕、ウォーキングやジョギング、犬の散歩をする人の姿をよく見かけるようになりました。あちらこちらで挨拶や談笑する姿が見られ、それはそれでホッとする光景です。

ところが困ったこともできました。それは散歩の犬があちらこちらにするフンやオシッコ。家の門柱、公園の砂場、電柱…「ところ構わず」とはこういうことを言うのでしょうか。ひどく臭う日もあるし、なにせ汚らしい。電柱やガードレールを悪くすると聞いたこともあります。

もちろん多くの飼い主の方は、ビニール袋を持って正しく始末しています。でも中には始末もせず、平気な顔をして犬を連れている人もいます。人の家の前ではフンを持ち帰りながら、すぐ横の畑で捨てているのを見てビックリしたことさえあります。

なにしろ顔見知りのご近所さん、面と向かって注意するのとはばかれる気がします。

街には犬が嫌いな人もいます。たとえ犬好きでも、道にフンが落ちているのを不快に思う人もいます。小さな子のいる家庭では、子どもがフンを触ったりしないかハラハラされているようです。町内会では役所をお願いして、フンを持ち帰ってもらうための看板も付けてくれましたが、効果があるようには見えません。

どうすれば犬を飼っている人もそうでない人も、気持ちよく暮らせるのでしょうか。

だって私は、やっぱり犬が好き。

